

果実もまちも

長寿をめざせ

今浜いちじく生産組合の若手たち



琵琶湖に近い
ハウスで実った
不老長寿の果実
完熟イチジク



今浜いちじく生産組合の新規就農者と組合長

新規就農したイチジク農家の2人にインタビュー



かわい りんこう
川井 玲央人さん
よってこファーム
主な生産作物はイチジク、
スイカ、スナップエンドウ



いわさき ゆき
岩崎 優希さん
あさやけファーム
主な生産作物はイチジク、
メロン、春菊

サービス業から農業人へ転身

大阪ではサービス業の経営者でしたが、「コロナ禍の打撃もあって「食べ物を作る仕事が一番強い」「自分を変えたい」と、農業フェアをきっかけに就農しました。

実は、故郷の大阪もイチジクの産地。子どもの頃に食べた味も懐かしく、イチジクの栽培を始めました。

今年は挿し木から果樹の苗を育てているところで、まだ収穫はできませんが、「美容果実」「不老不死の果実」といわれるほど栄養のあるおいしいイチジクが、私のハウスから出荷できる日が楽しみです。

縁をもらってイチジク農家に

就農を決めてから、専門学校で野菜や果菜類の栽培方法などを学びました。農地（ハウス）を探している時に、たまたま前組合長が農地を探し続けられる人を探しているという縁をもらって、イチジクの栽培ハウスを引き継ぎました。果樹を栽培することになるとは考えていませんでしたが、今は「この方（果樹栽培）が合っていたのかな」と思うようになりました。

先輩から受け継いだ、有機農法や木なり完熟のこだわりに自信を持っています。果実が柔らかいので、収

新鮮野菜や果実で

大阪のまちで新鮮な野菜を届ける宅配なども始めています。今は2カ所の農場でイチジク、メロン、春菊をメインに育てていますが、私自身も料理が好きなので、料理に使いたくなるような、ちよつと珍しい野菜なども作っていきたくと思っています。イチジクを使ったスイーツもい

いですね。地元守山の人や大阪の人も、私が育てた作物を楽しみにしてくれている、と思うと励みになります。農業を軌道に乗せて、いつか両親を守山に呼びたいと思っています。

穫期の忙しさや遠方へ送る難しさなどはありますが、市内外、他府県の人にも守山の特産品として「湖畔のいちじく」を選んでもらえる特産物に成長させていきたい、と思うと毎日の作業にも自然と力が入ります。

農業を憧れの仕事にしたい

「よってこファーム」と名付けたのは、体験イベントや直販などを企画して、消費者が気軽に寄ってもらえる農園に発展していきたい、という未来への意気込みでもあります。私の農業が、子どもたちの憧れになるような仕事にしたいと思っています。

こだわり栽培で25年 イチジク農家の若返り

今浜町で4〜5軒の農家がイチジクの栽培を始めたのは、約25年前のことです。今浜いちじく生産組合の野口 信人組合長も、その中の一人でした。当時市場出荷の価格は安く、決して順風とはいきませんでした。環境に優しい有機農法と品質にこだわりながら生産を続けてきました。しかし、生産者の高齢化が進み、1人欠け2人欠け、野口さんも、果樹の植え替え時期を節目に辞めようと考えていたそうです。

ところが、縁あって2人の新規就農者がイチジク生産を始めることになり、生産組合は一気に若返り、元気を取り戻しました。野口さんも若い人が頑張ってくれるなら」と思い直して、新しい果樹に植え替え、栽培を続けることにしました。

紆余曲折に耐えてこだわりを守り続けてきた「モリヤマいちじく」は、新ブランド「湖畔のいちじく」として、昨年度ふるさと納税の返礼品に登録。今夏に収穫した果実が全国に発送されています。

※「湖畔のいちじく」の今年の収穫時期は終了していますので、ご了承ください。



今浜いちじく生産組合
野口 信人組合長

今浜いちじく生産組合に新しく加わった若人は、それぞれ大きな夢を持っています。でも、若いうちは「若いから」と無理をしがちになるもの。

イチジクの木も苗を育て、ハウスに植え付けたら、じっくりと木の体力をつける時間が必要になります。

組合長という肩書より、一人のイチジク栽培の先輩として、若い新規就農者を手伝えるところは手伝い、夢に向かって、前に進んでいく彼らの背中を支えていきたいと思っています。